

平成29年度事業報告書

公益財団法人肥後医育振興会

熊本県における医学振興に必要な教育・研究の助成及び委託事業を行い、もって地域医療の向上と県民の健康増進及び日本国内外の医学・医療の進展に寄与するため、次の事業並びに支援を行った。

1. 医学教育・研究の助成（公1）

熊本県下の医・歯・薬・保健学系教育機関や医療機関に属する若手の個人又はグループに対して医学研究助成金を授与するため公募を行い、18名の応募者の中から選考委員会による厳正な選考の結果、以下の4名に授与した。

なお、研究助成金の授与とともに「肥後医育振興会学術奨励賞」を付与することとした。

やまもと まさとし

山本 真寿（31才） 熊本大学大学院生命科学研究部 助教 がん生物学分野
「細胞膜における ROR1 を基軸とした時空間的なカベオラ形成機構の解明」

たわら のぞむ

俵 望（35才） 熊本大学大学院生命科学研究部 特任助教
アジア神経難病研究・診療講座
「実験的筋炎マウスを用いた孤発性封入体筋炎根治療法開発への挑戦」

むらた ゆい

村田 唯（28才） 熊本大学大学院生命科学研究部 厚労科研研究員
分子脳科学分野
「統合失調症マウスモデルにおけるトランスポゾン転移機構の解析」

むらた あい

村田 愛（33才） 熊本大学発生医学研究所 特定事業研究員
分子細胞制御分野
「高速原子間力顕微鏡を用いたミトコンドリア膜の高分解能ダイナミクス観察」

2. 医学国際交流の支援（公1）

熊本県下の医・歯・薬・保健学系教育機関や医療機関に属する外国人留学生に対して奨学金を授与するため公募を行い、選考委員会による厳正な選考の結果、以下の4名に授与した。

なお、奨学金の授与とともに「肥後医育振興会優秀留学生表彰」を付与することとした。

ぶ る こ
布 魯 克

熊本大学大学院医学教育部 研究生（中国）

でうあんぐちつと すたつと
DUANGCHIT SUTHAT

熊本大学大学院医学教育部 博士課程2年（タイ）

ちょう たちから
張 田 力

熊本大学大学院医学教育部 博士課程3年（中国）

あでいかり でぶこた
ADHIKARI DEVKOTA

熊本大学大学院薬学教育部 博士後期課程2年（ネパール）

あんじやな
ANJANA

3. 熊本県民への医学医療情報提供活動（公2，公3，収1）

(1) 「肥後医育塾」公開セミナーの開催（公2）

県民に対して、定期的に医学・医療情報を提供し、県民とともに考える健康と医療を目指す目的で、一般財団法人化学及血清療法研究所並びに熊本日日新聞社との共催で、市民公開セミナーを年3回開催し、年間テーマとして「最新医学と社会」を取り上げた。

更に、熊本地震被災者や家族への医学医療情報提供のために、熊本地震血栓塞栓症予防プロジェクトと共催で臨時の肥後医育塾を開催した。

第1回は、「呼吸器病医療の進歩と社会(H29.10.7、ホテル熊本テルサ)」、第2回は、「正しく知ろう乳がんのことー診断から緩和ケアまでー(H29.10.29、ホテル日航熊本)」、第3回は、「歯科口腔外科医療の最前線ーお口の中から全身の健康を見つめ直す！ーH30.2.4、ホテル熊本テルサ」の演題で開催し、それぞれ約250名、約360名、約250名の参加者があり、後日熊本日日新聞紙面(H29.11.3、H29.12.6、H30.3.2 付)及び本財団のホームページ上で内容を県民に公開した。

臨時は、「エコノミークラス症候群 ～災害時の命と健康を守るために～ H29.4.23、くまもと県民交流館パレア」の演題で開催し、約300名の参加者があり、後日熊本日日新聞紙面(H29.5.31 付)で内容を県民に公開した。

(2) 第8回「熊本県医療人育成総合会議」の開催（公3）

日本の医療需要がピークを迎えると共に65歳以上の高齢者が総人口の三分の一を占めるようになる2030年に向けて、熊本における医療の能力をいかにして高めていくかを、医療界・医育界をあげて知恵を出し合っていくことを目的として、「第8回熊本県医療人育成総合会議」を開催した。

少子高齢社会の到来によって、医療に対する社会的要請は救急医療、高度医療などの疾患の治癒を目指すことに加えて長寿社会における健康の増進と生活の質(QOL)の維持・向上へと拡大しつつある。医療の範囲は長寿社会における生活再構築を目指した日常生活の支援を含む幅広い社会的活動へと変化してきている。そして、これからの医療は地域社会において介護や福祉と緊密な連携を作りだして、総合的な生活支援の一翼を担うことになることが期待される。

そのような総合的な支援体制は、日常の生活の場である地域コミュニティにおいて作り上げていくというのが「地域包括ケアシステム」の考え方である。

このような医療の役割の変化・拡大に対応するために、医療人を育成する教育課程において何が必要なのであろうか？「地域包括ケアシステム」の概念の共有と必要な教育について議論を深めることを目的とした。

なお、開催に関しては、実行委員会を設置し会議の内容の詳細を企画・立案した。

参加対象者は、医療関係の大学・専門学校等の教育関係者、各医療技術者協会の代表者、病院関係の代表者、行政関係の担当者のほかに新聞等で学生や一般参加者も募り、約100名の参加があり、後日熊本日日新聞紙面(H29.12.21 付)及び本財団のホームページ上で内容を県民に公開した。

(3) 生活情報紙「あれんじ」の健康・医学・医療、その他関連記事の編集及び刊行（収1）

熊本日日新聞社が発行するタブロイド版16頁の総合情報紙「あれんじ」（35万部発行）の第一土曜日号の10面と11面の見開き2頁を使い、健康・医学・医療並びに医学に隣接した学問分野の学術情報を県民に提供した。

内容としては、「元気の処方箋」(最新の医学医療記事)と「子育て応援クリニック」(小児科関連の医学医療記事)を12回、「慈愛の心・医心伝心」(女性医療人のリレーエッセイ)を8回、「四季の風」(俳句欄)を4回掲載した。

以下に「元気の処方箋」のテーマを記載する。

- 4月 治療の幅が広がってきた肺がん
- 5月 「頭痛持ち」になりたくない! 頭痛のタイプを正しく知ろう
- 6月 2030年には100万人を突破する!? 心房細動(しんぼうさいどう)とはなにか?
- 7月 行く前に学ぼう! 海外旅行の健康管理 Lesson
- 8月 正しい診断と治療で、完治を!! 足白癬(あしはくせん)(水虫)
- 9月 痛みを起こさぬ体になろう! 家庭でできるエクササイズ
【前編】肩こり予防
- 10月 痛みを起こさぬ体になろう! 家庭でできるエクササイズ
【後編】足腰を鍛える
- 11月 女性や小児、高齢者に多い 膀胱炎(ぼうこうえん)と腎盂腎炎(じんうじんえん)
- 12月 頑固な便秘には理由がある!? 改善しよう! 慢性便秘症
- 1月 治療の選択肢増えた花粉症
- 2月 気のせい? 病気? 目の周りや顔のけいれん
- 3月 子どもの精神面、行動面の問題について 成長・発達の過程で気を付けたいこと

4. 学会・シンポジウムの助成(公4)

熊本県下の医・歯・薬・保健学系教育機関や医療機関の研究者が開催する医学・生物科学関係の学会・シンポジウムに対して支援するため公募を行い、次のとおり助成した。

- ① 熊本地震シンポジウム2017(H29.4.22~23開催)
- ② 第54回九州外科学会・第54回九州小児外科学会・第53回九州内分泌外科学会(H29.5.26~27開催)
- ③ 第25回日本乳癌学会学術総会(H29.7.13~15開催)
- ④ 第27回国際喘息学会日本・北アジア部会(H29.10.5~6開催)
- ⑤ 第28回日本消化器癌発生学会総会・第9回国際消化器癌発生会議(H29.11.17~18開催)
- ⑥ 第58回日本肺癌学会九州支部学術集会・第41回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会(H30.2.23~24開催)

5. 医学研究会・研修会等の助成(他1)

(1) 熊本県下の医・歯・薬・保健学系教育機関や医療機関の研究者が開催する医学研究会並びに研修会等に対して次のとおり助成した。

- ① 熊大病院群卒後臨床研修プログラム研修医育成(H29.4.1~H30.3.31開催)
- ② トラウマ・うつと、どうつきあうか -自分と家族、仕事におけるセルフケア-(H29.4.15~H30.3.18開催)
- ③ 第90回日本ハンセン病学会総会・学術大会(H29.6.9~10開催)
- ④ 第39回むし歯予防全国大会 in KUMAMOTO(H29.10.21開催)
- ⑤ 第18回熊本エイズセミナー国際シンポジウム(H29.10.30~11.1開催)

⑥ 第17回熊本大学医学部医学科医学教育ワークショップ (H29.11.25 開催)

(2) 学生活動に対して次のとおり助成した。

・平成29年度蕃滋祭(薬学展：熊本大学薬学部学生主催 H29.11.4～5 開催)

(注)平成29年度本九祭(医学展：熊本大学医学部学生主催)は開催されなかった。

6. 広報活動事業(他2)

(1) 本財団の活動状況及び財政状況等を周知するために、広報紙「ニューズレター22号(A4判28頁)」を3,000部発行(H29.11.20)し、関係者へ配布するとともに本財団のホームページ上で内容を県内外に公開した。

(2) ニュース性の高い分かりやすいホームページを目指し、内容を随時更新し、本財団の多彩な活動内容を県内外に公開した。